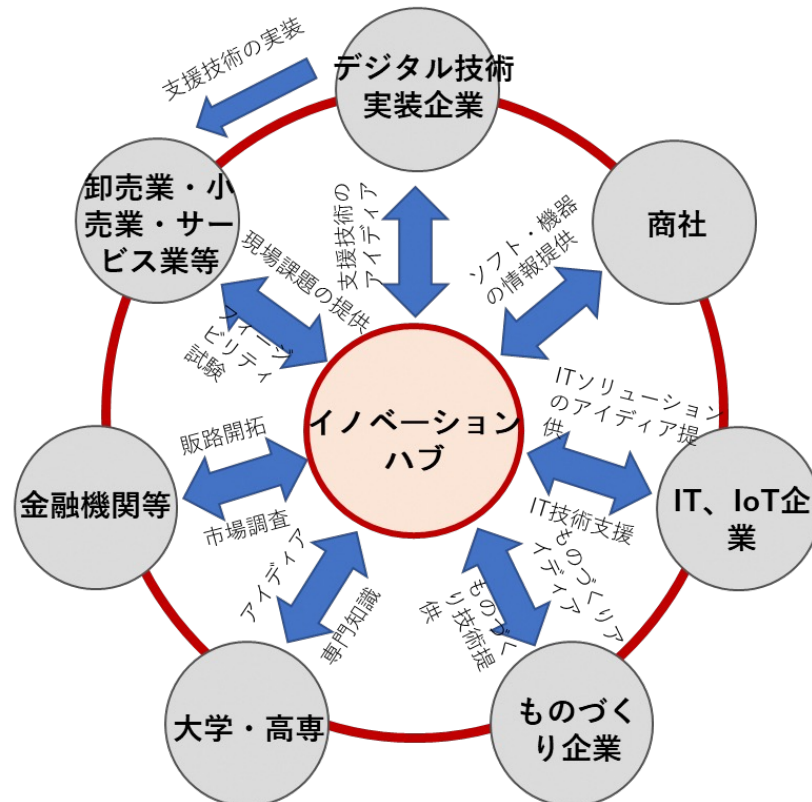


長岡デジタルビジネスイノベーション・ハブ

中小企業庁の「中小企業白書」によれば、建設業・製造業・通信情報業に比べ、卸売業・小売業・サービス業の労働生産性が低いことが示されている。
すなわち、卸売業・小売業・サービス業においては、ビジネスモデル、業務管理・形態等の課題解決により、労働生産性を改善できる余地が十分あることを示している。

本デジタルビジネスイノベーションハブでは、卸売業・小売業・サービス業などの業種における地域共通の現場課題を明らかにし、デジタル技術を活用し、その解決に取り組む。



- (1) それぞれの知識・能力・技術を生かし、課題解決するために必要なステークホルダー
- (2) 現場課題の把握と共通認識
- (3) 重要性・必要性の高い課題の選定
- (4) WGの設置により、取り上げた課題の解決策提案
- (5) 解決策による実証試験
- (6) 実証試験により実装可能となったものについては、商社・企業等と相談しビジネスへとつなげる

卸売業・小売業・サービス業の生産性の改善

生産性改善の有力な手法は、IT、IoT、AIならびにロボット等のデジタル技術を活用した、

- (1) 業務管理の改善
- (2) 業務形態の改善
- (3) 新たなビジネスモデルへの展開
- (4) 新事業への展開（他分野企業との連携を含む）

などがあり、日本全体としてGDPが伸びない経済状況下では、早く取り組み、売上、付加価値を上げ、給料を上げていくことが重要であり、そのことが、GDPの増加、働き方改革の推進、雇用確保、新入社員確保につながる。

さらに、中長期的には人口減少社会への対応の観点からも、少ない労働力で、これまで以上の生産活動を行えるような、体質改善が欠かせない。

デジタル技術の活用には、いくつかの注意点やバリエーションがある。

- (1) デジタル技術の導入が目的ではなく、課題の解決が目的であることを忘れないこと。
- (2) 現場の課題は、その企業しかわからないので、人任せにせず、自ら深く分析する必要がある。
- (3) そのうえで、課題解決に向けて、デジタル技術をどのように活用できるかを専門企業等と話し合う。
- (4) 解決策について十分検証して、いきなり全面的導入ではなく、少しずつスモールスタートで経験を積みながら、進めていくことが重要。
- (5) 段階的な導入とともに、業務担当者のIT、IoT等のデジタル技術のスキルの向上を図り、メンテナンスや改善を自社でできることを目指す。



長岡デジタルビジネスイノベーションハブで課題解決を目指しましょう。

長岡デジタルビジネスイノベーション・ハブへの参加に関して

イノベーション・ハブはその目的から、参加者は自由に参加でき、やめることもできる、フレキシブルな体制をとっている。

参加希望者は、ハブ事務局（長岡市商工部産業支援課）までご連絡ください。

現時点での参加者は、以下を予定。

- 卸売業・小売業・サービス業等の市内企業10～15社程度
- ものづくり企業2社程度
- IT企業5社程度
- 商社2社程度
- 金融機関2行
- 長岡技術科学大学・長岡工業高等専門学校
- 長岡大学
- 特許事務所 など

イノベーション・ハブの会合は、当面は月に1回・2時間程度を考えており、会場はNaDeC BASEの予定です。